

9 ナシ栽培における堆肥利用と土壌診断による施肥量の適正化 (前橋市木瀬地区)

情報提供：中部農業事務所普及指導課

活動の背景

前橋市木瀬地区のナシ栽培は、ナシ園と住宅の混在化が進み栽培上の制約が他地域より厳しくなっている。そこで、県内主要産地として減農薬や減化学肥料栽培などの環境にやさしい農業に取り組んでいる。

また、肥料価格等の資材高騰により生産費低減対策がさらに求められている。

普及活動の経過

ナシ園に堆肥利用を推進するために、平成19年3月に「木瀬地区堆肥利用推進協議会」を設立し、畜産農家との連携強化を図った。堆肥を散布する「堆肥利用組合」4組合を設立し、補助事業により堆肥散布機などを導入した。

堆肥の利用を推進するため、堆肥の有機質肥料としての価値とその適正な使用方法を講習会等を通して説明し、化学肥料の削減を図った。

あわせて土壌分析に基づく施肥改善を指導・推進した。

普及活動の成果

土壌分析が47戸、115ほ場で行われた。分析結果では有効態リン酸及び加理の過剰園が多く91.3%を占めていた。

堆肥の施用推進とあわせ、加理とリン酸の過剰園には窒素単肥（硫安）の施用を推進・指導した結果、地区内の有機化成肥料（10種類）の扱い量は前年比54.5%と減少し、硫安の扱い量が前年比1032.7%と増え土壌分析に基づく施肥改善の理解が得られた。また、経費の面からも化成・有機化成肥料（11種類）の総金額（肥料予約金額）も前年比81.3と減少した。

このことから、ナシ栽培者に有機質肥料としての堆肥の価値を認識してもらうとともに土壌分析が過剰施肥の改善につながった。

結果として、過剰施肥防止として堆肥及び単肥施用が多くなり肥料コスト低減につながった。

技術のポイント

- ・ 窒素肥料（単肥）を中心とした施肥時期、量、回数などのサポートが重要
- ・ 土壌分析を定期的実施し、分析結果にあわせた施肥量の算出
- ・ 堆肥と硫安（単肥）の組合せによる施肥体系の構築
- ・ ナシ園に適した堆肥の確保
- ・ 堆肥利用組合の充実・拡充と散布オペレーターの育成